

英国政府、プラスチック製のストロー、スターラー、綿棒の使用禁止へ

先日、環境・食糧・農村部省は、2018年10月から2か月間にわたって行われたプラスチック製のストロー、飲料用スターラー、綿棒の使用に関するコンサルテーション（公聴会）を行った結果、参加者の80%がプラスチック製のストロー、90%が飲料用スターラー、そして89%が綿棒の禁止に賛同しており、これを受けて2020年4月より、プラスチック製のストロー、スターラー、綿棒の供給禁止が施行されると発表した。

これにより、レストラン、パブ、バーなどの飲食施設や家庭での、プラスチック製のストローや飲料用スターラー、綿棒の使用が全面的に禁止されることになる。



プラスチック製ストローのイメージ

但し、医療上の理由からプラスチック製ストローを使用する必要がある人にも確実にアクセス出来るようにする為、登録された薬局、小売店またはオンラインでのプラスチックストローの販売が許可される。政府はこれが環境への影響を減らすことに貢献でき同時に病気や障害を持つ人々の権利を保護することも出来るとの見解を発表している。

英国では、年間47億個のプラスチック製ストロー、3億1600万個のプラスチック製スターラー、18億個のプラスチック製綿棒を使用されていると推定されており、綿棒の推定10%がトイレに流され、水路や海に行き着く可能性があるとされている。

環境・食糧。農村部省のゴープ大臣は、次のように語っている。

「プラスチック汚染に取り組み、環境を保護するためには、緊急かつ決定的な行動が必要であり、これらのアイテムは、たった数分間使用されることがほとんどで、その果てが海に行き着き、貴重な海洋生物に害を及ぼしている。私たちは、プラスチック汚染の潮流を変えて、将来の世代のために環境をより良い状態が保てる様に行動を起こしている」。

非プラスチック製の代替品は容易に入手可能であるがコストの面からストローの

95%はまだプラスチック製であると推定されている。ゴミ捨ての影響を一掃するには、地方自治体が毎年多くの費用をかけねばならず、特に漁業や観光業に携わる人々の89%が心配を募らせている。

世界の海洋には1億5000万トンを超えるプラスチックが漂っており、毎年100万羽の鳥と10万頭を超える海の哺乳類がプラスチックの廃棄物を食し絡まって死んでいると推定されている。最近の報告によると、海中のプラスチックは2025年までに現在の3倍になると推定されている。

今回の発表は、3年前の政府の指示による使い捨てビニール袋の有料化により、主要スーパーマーケットでのマイバック持参の比率は86%に達し、その成果が顕著である。紙、竹、木やバイオプラスチックを使った、ストロー、スターラー、綿棒への切り替えに期待が寄せられている。

筆者が日常の買い物に訪れる大手スーパーでは、ほぼ100%の買い物客がマイバックを持参している様で、またバラ売りされる野菜や果物類を入れるバックは生分解されて土に還るタイプに切り替えられていた。（写真参照）



スーパーが無料配布している生分解バック

日本はプラスチックバックの有料化が2020年4月からスタートすると経産省の発表が先日あったが、東京オリンピックが開催されるから急ぎで行うのではなく、もっと早い段階から有料化をスタートさせ、マイバック持参を習慣化させるべきだったと思えてならない。（了）